☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

神戸新聞　平成２９年８月２０日（日）

■ 丹波市タウンミーティング

空き家活用 宿泊施設に
市内周遊 バスツアーを
高校生28人 市政に提言

少子高齢化が進む丹波市で、若者の率直な意見を市の施策に反映させようと、たんば黎明館（同市柏原町柏原）で19日、市内の高校生28人と市長を交えたタウンミーティングがあった。「暮らし続けたいまち」をテーマに議論した高校生は公共交通や娯楽施設の充実を要望し、空き家をレストランやホテルに活用するアイデアなども提案。市は今年３回予定しているミーティングで登場した意見を反映させた政策を来年度予算に盛り込むという。（中西幸大）

「商業施設にフードコートがほしい」「空き家を自由に使っていい条例をつくる」などまちづくりの要望や意見を発表し合う高校生＝たんば黎明館

「子育て」「農林・商工業」などテーマごとに住民の要望を把握し、政策の参考にする場として市が初めて企画。この日が1回目で柏原、氷上、氷上西、三田祥雲館、京都府工の5高校の1～3年生が参加し、関西大の学生6人がまとめ役を担当した。

冒頭に市幹部が人口減や空き家増など市の現状について説明した後、高校生は6班に分かれて議論を開始。全体司会を務めた関西大学佐治スタジオの出町慎さんから「丹波市ならではの視点も盛り込んで」などと促されて意見をまとめた。

発表では「空き家を宿泊施設やジビエレストランに」「バスの本数を増やし市内周遊ツアーを」「山里らしいアスレチックを整備」といった地域活性化策や「スポーツ施設があれば部活の公式戦も近くでできて、人が集まる場所になる」「自転車通学なので街灯整備を」などと生活実感に伴う要望が相次いだ。

谷口進一市長は「何でも市でできるわけではないが、公共交通への注文が多く印象的だった」と感想を述べ、柏原高校3年の能勢咲貴子さんは「いろんな学校から同世代が集まり地域の将来を話し合うことに意義を感じた」と話していた。

次回は10月に子育て支援、11月に農林・商工業振興をテーマに行われる。